

がんばるぞ〜

青年団が主催する地区対抗の運動会は気合が入った。この頃はこれと言った娯楽がなかったもんで若い力は有り余った。地区対抗ともなれば闘志がメラメラと熱く燃え上ってくる。

砲丸投げ、走り高飛び、走り幅飛び、三段飛び、余興の玉入れなど、中でも一番盛り上がるのは走る競技だった。短距離走、中距離走、リレー、マラソンと、相手が誰れであろうと今日は強烈なライバルだった。

いろいろ競技が進められとる会場にマラソンの走者が戻ってくる。と観客の関心はマラソンに移り大歓声は走者を称えた。そんな時会場で真剣勝負をしようとする選手らは一瞬白けたわな。

見物する村の人は手をたたき氣勢をあげ、腹の底から笑いこけた。

運動会が終わると各地区に戻りにぎやかに開く。こうこうさん会では重箱につめてきた御馳走を大盤振るまいしながら皆んなで舌つづみを打ったんやさ。

健闘を称えてくみかわす酒の旨さはこれまた格別だった。



協力者

白木 信行さん (72歳)



みんなで築こう 人権の世紀

身近なことから人権を考えてみませんか

「大切な仕事」

3年生のしのぶ君たちのクラスでは、授業参観で「いろんな仕事」という授業がありました。先生が子どもたち一人ひとりに、「お父さん、お母さんの仕事を知っていますか？」とたずねていきました。しのぶ君の番になりました。お父さんの坂本さんは何と答えるのだろうと不安に思っていると、しのぶ君は、小さな声で「肉屋です。ふつうの肉屋です」と答えました。坂本さんは「そうかあ」とつぶやきました。

しのぶ君は、授業の後、先生に呼び止められます。「何でお父さんの仕事は、ふつうの肉屋でゆうたとや？」しのぶ君は「ばってん、カッコ悪かもん。・・・」と答えます。「坂本、おまえのお父さんが仕事はせんと、先生も、坂本も、校長先生も、会社の社長さんも肉は食べれんとぞ。すごい仕事ぞ」と諭されます。

学校から帰ったしのぶ君は、お父さんに言います。「お父さんが仕事はせんと、みんなが肉は食べれんとやね」「お父さんの仕事はすごかとやね」その言葉を聞いて坂本さんはもう少し仕事を続けようと思いました。

これは、絵本『いのちをいただく -みいちゃんが肉になる日-』の一節です。食肉解体業に携わっている坂本さんの実話を元に作られた絵本です。

この絵本は、どの職業も社会を支える欠くことのできない大切な仕事なのだを教えてくれています。それぞれの職業の大切さ、そして命の尊さを絵本から学んでみませんか。

ハートピア安八図書館にあります。ぜひ、読んでみてください。

【人権に対するお悩み・お問い合わせ】 福祉課内 人権擁護委員会事務局 ☎ 64-7104 (直通)